

## 「第6回 熊本 BHELP 標準コース 参加報告」

令和7年11月30日に、第6回熊本 BHELP 標準コースが、熊本機能病院で開催されました。

BHELP とは、「Basic Health Emergency Life Support for Public」の略称で、災害時における被災者への対応を学ぶための研修プログラムです。このプログラムは、日本災害医学会によって運営されており、地域医療や保健福祉に従事する人々を対象としています。BHELP の目的は、災害発生直後から避難所での活動を効果的に実践し、被災者の生命と健康を維持するための知識や技術を習得することとされています。

私たち言語聴覚士も、地域保健・福祉関連業務に従事する者として、発災直後から避難所での活動を効果的に実践するために、災害対応における知識、共通の言語と原則を理解しておく必要があります。自分自身・家族の命はもちろんのこと、避難者・被災者の生命と健康の維持を目的に、災害発生直後から災害対応能力を向上に資するよう、1日を通して講義・演習に取り組み、有意義な一日となりました。

災害関連死を防ぐためには、災害現場において本当に支援が必要な人に必要な支援を届けるため、医療チームだけでなく多くの人々の助けと連携が必要です。今後も多職種や地域の方々と協力しながら、「自分に何ができるのか」と日々疑問を持ち、さらなる災害対応に対する知識を向上させるべく、継続して研鑽に励みたいと思います。また、言語聴覚士の皆様にも、少しでも興味を持っていただければ幸いです。

災害対策協力員 山口 春菜